

福沢諭吉 変貌する肖像 小河原正道  
知識人が論じた福澤

この本は知識人といわれる評論家、教育者、学者、ジャーナリスト等の福沢評を

①幕末維新、 西欧文明導入（西欧社会型の日本社会を目指す？）

②明治 立憲議会制への試み、明治14年の政変

③大正、昭和終戦 塾存続のためのコンパス論

④戦後 塾存続のための対処にたいする指摘

⑤高度成長期以後 通俗的理解の登場

大きく5つの時代に分けて紹介している。時々の社会状況の中での福沢評といえる。社会状況がかわっても福沢先生がかわるわけではないので時代における考え方、特に社会、政治における考え方によって福沢先生の評価がおおきく変わってきていることがわかる。

徳富蘇峰の初期の福沢評は儒教文化から西洋文明への転換をはかる政府と同様西欧文明の導入者として評価しているが太平洋戦争中は日本の伝統的な涼風美俗を墓いしたとしてその代表的主張の独立自尊は自分の利益しか考えない悪しき個人主義の典型で愛国主義に反するとしている、福沢諭吉研究センターの都倉准教授の調査研究では昭和12年の陸軍予備士官学校の教科書に学問のすすめを当時の日本陣の6人に1人が読んでいたのは問題であるとの表記がある。また、反対にアメリカ軍の宣伝ビラに福沢先生の肖像画をのせ明治維新以来欧米的民主主義思想を日本は学んでいると宣伝している。

横道にそれるが昭和7年の回顧という雑誌で福沢先生回想座談会の記事がありこの中に明治14年の政変は伊藤の裏切りで失敗したという伝聞がのっている。大隅重信侯と福沢先生は政権交代可能な議会制政治をもくろんでいた。明治十年丁丑公論も同じ趣旨ではないだろうか。大隅侯を通しての政権工作は塾運営資金（これは伊藤総理事ことわられている。）援助要請にも及んでいる。また福沢研究センターの都倉准教授による千葉の長沼事件。愛知県の郷土史家河内清氏による春日井郡地租改正運動という農民運動の支援として大隅侯に依頼している。福沢先生は質素儉約による資本蓄積と長沼においては資材を寄付して小学校設立。いまでも長沼小学校には独立自尊の碑がある。（都倉淳教授）農民といえども庄屋クラスの有産階級への援助であるが小学校の設立による学問の普及、質素儉約による資本の蓄積と小作農に向けた方策もうっている。無産階級から有産階級への道である。

欧米体験にもとづく福沢ビジョンとその思想と慶應義塾の存続をかけた著作の数々とその石をついだ鎌田塾長から小泉塾長までそれが福沢コンパス論を用いて時代になるべく沿った解釈をあたえてきた。福沢ビジョンは今流にいうと

天皇制のもと議会制民主主義、選挙による政権交代で民意が反映され個人の自由と社会全体の調和がとれた社会と考えると理解しやすい。」

乱暴に言えば戦前の批判は立ち位置の違いであり現在に生きる我々の立ち位置から見ると当然批判している内容が異質のものに見える。。

戦後の批判は慶應義塾存続のための方便にたいする内容となっている。

、また、脱亜入欧論批判においてはこの前段階の韓国留学生受け入れや儒学（朱子学）からの脱却の失敗をみてという視点がかけている。戦後マルキシズム隆盛のころは無産階級への視点が問れるが福沢ビジョンでは彼らのいう無産階級から質素儉約による資本の蓄積と教育によ総中流階級化が読み取れる。

戦前の評価の代表例

徳富蘇峰

福沢先生は西洋のいいことを輸入するというよりも日本のことをことごとく壊すという方針でやってきた。最後の決着」は独立自尊ということになってしまった。独立自尊ということは個人主義をことな言葉で説明したものである。独立自尊でやっていく以上は愛国というなどとは縁が遠くならざるを得ないような結果になってきた。

戦後の評価の代表例

ライシャワー

福沢諭吉ほど日米関係の初期に両国間の仲立ちにとなった人はまたとない。特に学問のすすめが今日でも健全妥当だとして福沢が他社の権利を侵害せず自己の自由を達成しようとした種子は米国の政治思想史を貫いて流れている。

明治初期の指導者の中でひとり福沢が平等で独立した個人によって構成されかつ各人が自己の社会的責任を負うような国家の必要性を力説した点に注目し、政治制度として民主主義を目指し、現在の日本国憲法に非常に近い思想をもっており、ただ福沢の価値体系のみが今日もなお全面的に有効であり、現代の諸制度と社会秩序に手古豪するものとなっている。

丸山真男

福沢は具体的な状況に応じて流動化し、相対化するための強靱な主体的精神を備え、特定の価値基準を金貨玉条として墨守する姿勢を閑寂として批判した。政治的絶対主義もまた価値判断の絶対主義を伴うため、政治権力者の価値判断が絶対視することなく、価値基準が多元化され、そこに自由が生まれ、福沢は人民に対し自由への道を「自主的に」歩ませることに障害をささげた、

小河原正道

まだ体系的な福沢像を構築できていないとはいえない。丸山真男が我々が誉められること少なく、読まれること多きを望むと示唆した福沢からのメッセージに応えるものとなっていったのかは文化人としての拘束から解き放たれる今、改めて問い直されなければならぬまい。

また福沢先生追悼記事については読売、朝日。万朝報の各氏に共通するものとして官に頼らずこれに対抗し、自立した民の側に立って文明化を先導文明化を先導した大平民であったと評している。とまとめている。